

**秋田洋上風力発電事業にて、海上保安庁 第二管区海上保安部 仙台航空基地と
合同救助訓練を実施しました**

2024/10/11

丸紅洋上風力開発株式会社

2024年9月13日、秋田洋上風力発電株式会社の能代港サイトにおいて、海上保安庁 第二管区海上保安部 仙台航空基地との合同救助訓練を実施しました。その訓練の様子が北羽新報と秋田魁新報に取り上げられました。能代港で海上保安部とレスキュー訓練を行うのは、2022年12月の運転開始以来、初めてでした。

当社では、今後も関係者と連携し、安全第一で安定的な事業運営に努めていきます。

【新聞記事】

<p>洋上風力発電の風車内で負傷者が発生したことを想定した訓練が、能代港湾区域で行われた。発電事業を手がける秋田洋上風力発電（能代市、メンテナンス業務を担う丸紅洋上風力開発（東京）と海上保安庁第二管区海上保安本部仙台航空基地が要救助者を風車内から搬出する手順を確認した。</p>	<p>訓練は、風車内の最下部で作業員が負傷し、倒れているとの想定で実施した。作業員が負傷者を発見し、事務所内のマリンコントロールルームを通じて海保に救助を要請。作業員輸送船（CTV）で海保の救難班が風車に到着すると、高さ約24メートルの位置にある</p>	<p>風車内の負傷者を救出 能代港湾区域 海保と事業者訓練</p>  <p>デッキから内部に入り、最下部まではしこで下った。要救助者をストレッチャーに乗せ、ロープを使って風車上部に引き上げた。</p> <p>訓練は13日に開催。秋田洋上風力発電の渡邊卓真所長（35）は「訓練さえしていたら、命が助かっていたはずだったのに」ということが一番あつてはならない。さまざまな想定をした訓練を継続したい」と話した。</p> <p>丸紅洋上風力開発技術統括部の前田啓彰担当部長（50）は「狭い空間で動けなくなっている人をどう救助するかが重要になる。海保の高度な技術を見るのができてよかった」と述べた。（加藤龍太郎）</p> <p>風車内にある負傷者を救出するとの想定で行った訓練（丸紅洋上風力開発提供）</p>
---	---	--

秋田魁新報（2024年9月23日）

区域港湾能代 洋上風車で救助訓練 発電所2社 と海保合同 基礎内部の作業事故想定

能代、秋田両港の洋上風力発電所を運営・管理する2社と、海上保安庁第一管区海上保安本部仙台航空基地(宮城県仙台市)の合同訓練が13日、能代市の能代港湾区域にある洋上風力発電設備で行われた。海上に立つ洋上風車基礎の最下部で倒れた作業員を救助する訓練で、狭い空間で迅速に負傷者をストレッチャーで運ぶ手順などを確認した。同港で海保とレスキュー訓練を行うのは4年12月の運転開始以来、初めて。

能代、秋田両港風力発電所の事業を手掛けた「秋田洋上風力発電」(AOW)と「市日利山」(東洋、風車の基礎や海底ケーブル、陸上送電設備の運転保守と人員輸送船の運航管理を行う「丸紅洋上風力開発」(MOWD、東京)の3社で発電所を運営。協力会社「アチハ」(大阪市)を含む総勢約60人体制で進めている。訓練では、海面から約24mの高さにある洋上風車基礎の最下部で作業中に倒れた人を救助する想定で実施。仙台航空基地の機動救難班から5人、AOWから3人が参加した。簡状になった基礎の内部では通常3人1組で作業を行う。基礎の最下部で倒れた作業員を、上で見守る別の作業員が見つけ、同社の



洋上風車の基礎内部で作業員をストレッチャーで救助する海保の機動救難班(能代港で)

「マリンコントロールルーム」を通して118番通報して、海保に救助要請した。仙台航空基地の機動救難班が洋上風車に到着し、現場指揮者を決めて全体の状況を把握。コントロールルームから風車の運転状況や内部環境に関する情報を入力し、マンホールを開けて直径1mほどの狭い筒状の空間を降下。電動ウィンチ

を使って24kgの基礎上部まで引き上げた。基礎内部はしこから落ちて背中を強く打ち、仲間による救助が困難と判断されるケースでも実施。救難班が狭い穴からストレッチャーを最下部に降ろし、負傷者を上まで運ぶ手順を確認した。

能代港・秋田港洋上風力発電所の渡邊卓真所長(35)は「洋上風車の事故はアクストリウムな状況で1分1秒を争う。アクセスしづらい基礎の内部の狭い空間を実感しながら、迅速に救助する訓練を行う意義は大きい」と話した。能代事務所の佐藤俊介所長(43)は「洋上風車は海で行う事業なので陸上以上にリスクが伴う。救助も簡単ではないので、事前に事故を想定し有事に備えることが重要。従事者の運動も考え継続的に訓練したい」と話した。基礎の点検では事前に内部の酸素濃度を計測しファンで10分間送風してから入るなど、作業員の安全を確保するための手順がある。安全確認などこれと併せてMOWDの船田隆雄技術統括担当部長(50)は「海保のレスキューはスピードや」と述べた。

安全確認などこれと併せてMOWDの船田隆雄技術統括担当部長(50)は「海保のレスキューはスピードや」と述べた。